

事例 2

テーマ

本人が関わりを拒否する場合の対応について

以下は、平成 23 年 12 月に報道された事件の顛末です。この事例を読んでみて、特に対象となる本人が周囲との関わりを拒否する場合の対応について、これまでのご自身の体験を振り返りながら話し合ってみてください。

(新聞記事) A 市・77 歳の母と障がいをもつ息子が病死

A 市の住宅で平成 23 年 12 月、2 人暮らしの母親 (77) と重い障がいがある息子 (44) が相次いで病死していた。

警察によると、息子が通所していた福祉施設の職員が、2 日続けて母親が電話に出ないのを不審に思い、昨年 12 月初旬に自宅を訪問。トイレの窓から中をのぞいたところ、あおむけで倒れている息子を見つけ、警察に通報した。

駆けつけた警察官が、台所で倒れている母親も見つけた。解剖の結果、母親の死因は解離性大動脈瘤破裂、息子は肺気腫などによる呼吸不全。母親は死後約 1 週間、息子は前日に死亡したとみられる。

警察署によると、息子は小児まひに加え、知的障がいもあり、1 人で歩いたり食事をすることができなかった。息子が昨年 9 月まで通所していた福祉施設によると、昨年 7 月に父親が病死した後、同施設に通う回数が減り、同年 9 月には母親から「通うのをやめます」と電話で連絡があった。母親は市役所の職員に「夫を亡くして忙しくなり、息子を朝起こして施設に通わせるのが大変になった」と説明したという。

施設では、息子が通わなくなった後も、不定期に電話をかけたかたり安否確認をしながら、通所の再開を勧めていたが、母親は「困っていることはない。大丈夫」と断り続けたという。施設や市役所の関係者は、『困っている』といってくれたら支援できたが、『大丈夫』といわれると介入のしようがない。本当に悔しい」と唇をかんだ。

この母親と息子は 2 人暮らしだったため、民生委員の訪問の対象外だった。

(※記事内容については、加筆等の編集の上、掲載しています)

谷折

榎本 先程から話に出てくる「地域づくり」についてですが、民生委員が行う「相談・支援活動」と「地域づくり」は、ある程度分けて考えるべきだと思います。何でもキャッチボールというわけにはいきません。民生委員の活動を支えているのは、相談者からの相談内容を周囲に漏らさないという信頼感があってこそです。

地区社協と民生委員は、(個人情報に対する)受け取り方がだいぶ違うように思います。地域づくりについては、関係する人は、日頃から「こういう場合はこうしよう」という連携をとっていくのはいいんですが、お互いの立場を踏まえた中での地域づくりが必要となってくるように思います。

その中で、民生委員は、特別職の地方公務員である民生委員だからこそできる役割について

検討し、実践していく必要があると思います。

大野 地区社協の方たちには、民生委員に対して一番大きな理解者と協力団体であってほしいと思います。民生委員としては、きちんとした連携先を把握し、どうしたら解決できるかということを見極めて活動していかなければいけないなと考えています。

今、地域にはいろいろな課題がありますが、とにかく関係機関と話し合う場を持つことが連携の第一歩だと思いますし、「活動しやすい環境づくり」につながるのだと思います。

泉 この座談会の内容を読まれた皆さんも、民生委員の役割や地域について、地区社協等の関係機関と、共に歩む仲間として前向きに話しあう機会を持たれるといいですね。

番外編

社協との未来予想図を描いてみよう！

座談会で出されたご意見と、(皆さんの)これまでの活動や地区社協との関わり方を踏まえて、あらためて今後どのような活動を行っていくか、皆さんで話し合ってみましょう。

- 1 座談会では、民生委員の役割について、「(支援を必要とする)住民の情報を把握する」ことと、その「情報をつなぐこと」が挙げられています。そして、地区社協には「見守りのある地域づくり」を担ってほしいとのご意見がありました。皆さんの地区では、民生委員(民児協)と地区社協は、今後どのような役割分担をしていくべきか、話し合ってみましょう。

- 2 座談会では、「社協活動に参加することも良いが、まず担当地域の実態把握など、民生委員活動やその役割について覚える必要がある」とのご意見がありました。また一方で、「社協活動に参加することで民生委員の役割を果たすことができる」とのご意見もありました。皆さんの地区民児協では、どのように考えますか？ 皆さんで話し合ってみましょう。

谷折